

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570812610		
法人名	有限会社 グループホームさんぼみち		
事業所名	グループホームさんぼみち中仙		
所在地	秋田県大仙市長野字太田袋1～1		
自己評価作成日	平成31年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成31年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季を通して毎朝、ラジオ体操、歩行、手足の運動実施による利用者全員の筋力低下防止に力を入れております。施設周辺は施設の理念にも唄われているように広大な田園風景の中に立地し、利用者が自分らしく自分のできる事に参加しながら、生きがいを見出せるよう、又、体力維持向上に努めた支援に取り組んでおります。食前の嚥下体操を行う当番には各利用者様を担当割し当番予定表を立てながら1人、ひとりに順番が巡ってくるよう考慮した意欲低下防止に繋げており、その成果も得られています。日中はトランプ、カラオケ等を楽しみながらも自立の支援と意欲をもって生活できるよう全スタッフが支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは車通りも少ない場所にあり、天気の良い日は外でラジオ体操や散歩を行ったり、冬や天気の悪い日はホーム内の広い廊下を歩いたり、体力維持に取り組んでいる。管理者の交代があったが、以前から勤務している職員が管理者となり、職員間の風通しが良く、困ったことも相談しあい、コミュニケーションが円滑のため職員が定着している。玄関前ではミニトマト等の菜園を、また、最近ではカラオケ等、利用者が楽しめるものを提供できるよう日々考えて支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は毎朝、当日の出勤スタッフが確認も兼ねて一緒に読むようにし、理念を共有した支援内容から逸脱したりすることのないよう再確認し合っている	開所当時に作ったものだが、理念の通り、筋力低下を防ぐことが一番と考えており、毎年理念についての話し合いを行っているが、自施設には一番適している理念であると職員一同考えており、日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や敬老会等には積極的に参加もし、なるべく地域住民との繋がりが多くなるよう考慮し、交流の機会を図っている	地域住民にもっと事業所の事を知ってもらいたいと、部落の行事を教えて頂き参加出来るよう働きかけし、今年度は、町の祭りや近隣の小学校、中学校の文化祭に招待され参加している。秋には小学校で作ったさつまいもをもらったりと、徐々に地域との交流の機会を増やしている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	部落の座談会には出席させてもらいながら理解を求めたり、支援方法を伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前より家族の出席を積極的に呼びかけた事で参加も多くなり又、そこで出た意見や提案等はサービスに反映させ、前回、出席できなかった方のためには前回の報告も添えるようにしている	家族の方の参加可能な日程を聞き、その日に開催したりと、参加者確保の工夫をしている。堅苦しい会議で、意見が出ないということが無いよう、出席者にハーモニカの演奏を依頼したりと、雰囲気づくりにも気を配っている。前回欠席した人から、前回の内容についての質問もあり、欠席した人にも、きちんと会議の内容が伝わるよう、配慮した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	依頼があった場合や各種の調査等には応じ、又、市町村からの助言も受けながら速やかな改善となるよう取り組み、協力関係を築いている	行政より、インフルエンザの予防について、引き続き行って下さいとの連絡があり、年2回の感染症予防研修以外に、事例を元に、ホームではどうするか、手洗いうがいの徹底や、絶対外から持ち込まない為には等話し合いを行い取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にも題材テーマとして又、これについては施設の指針として整備し確認してもらいながら各スタッフに理解を得るよう全員に周知徹底も図っている。身体拘束のないケアを目指しているも現対象者はいない	現在、身体拘束の事例は無い。以前はあったが、その際も、きちんと計画通りに期限を定め支援を行い、身体拘束を解除している。内部研修の他、外部研修にも毎年参加し勉強している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については周囲で見過ごされていないかを常に注意深く観察しながら防止に努めている。法令順守も申し送り時に確認し合っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、実際に権利擁護を利用している方が1名おり、毎月の訪問時には職員も同席し近況の事についての報告や必要な事なども伝えながら報告するようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書を読み上げて説明し疑問や不安を解消するように努め、理解を得ながら納得の上で行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族をはじめ利用者さんの方にも出席してもらっているため、その場で出た意見や要望は運営にも反映させることが容易となっている	運営推進会議への参加案内の時に、「前回このような話があったが、何か要望はありませんか」と意見を聞く機会を作る努力を行っている。又、意見を聞き、改善に繋げ、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを行う事で職員の意見、提案を聞く事ができ又、その意見を反映するように努めている	朝のミーティングや、申し送りの際に、「昼ごはんの後、すぐ寝てしまうので、起きていられるようにするにはどうするか、個々の排便のコントロールについて、日々の利用者に対する対応を統一するには等、活発な意見が出され、支援を行い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の能力を引き出しながら給与水準や労働時間について職員の理解を得て決定している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は全職員が研修を受ける機会を多くし、一人ひとりの力量アップに努めている。又、経験の少ない職員とベテランを組み合わせ指導しながらレベルアップに繋げている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流については現在実現できていないが同事業所内の職員同士とは勉強会や親睦会等の交流を行っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みや初期の段階で本人が困っている事や要望等はなるべく詳細な情報を得るようにし又、十分に耳を傾けるようにしている。入居後もお茶の時間等にはスタッフも同席し安心を確保し信頼関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前に家族が困っている事や、本人の思いを十分に聞き、同意を得ながら信頼関係を築くようにしている		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方が今現在、出来ていることに着目し、食器拭く、掃除機かけ等のお手伝いを通して役割り感と意欲を引き出している		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて電話連絡や毎月のお便りを通し、近況の様子をお伝えしている。尚、家族からの要望等があれば応じるようにしている		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や近隣の方など面会に来られた場合は居室でゆっくり会話ができるよう支援している	家族が外食に連れて行ってくれたり、馴染みの人の協力の元、関係継続が行われている。電話や郵便の要望があれば、支援している。	面会に来た場合、居室でゆっくり話ができるように支援しているが、認知症が進み、会話ができなくなってしまう、疎遠になってしまわないよう、予防する対策、又繋がりを継続できるような取り組みに期待します。
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ここの力量、出来ることを把握しながらレクやお手伝いには参加していただくようにしている。そこで支え合う関係が生じ、孤立しないよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も引き続き、必要であれば情報提供、相談ごとには応じるように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン更新時の事前には本人からの要望は勿論、モニタリングには家族や両方の意向や希望の聞き取りをしている	本人や家族に確認しながらの把握の他、トイレへの誘導時、入浴の介助時等の会話や表情等からくみ取り支援している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回のアセスメントを基に本人とのいろんな場面でのやりとりで得た情報を記録し又、新たな心境の変化等があった場合も記録している		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれが得意とする事は持続しながら、塗り絵、花札等が出来るように支援している		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の現状の変化は全スタッフに周知し、共有するように同じケアを目指し、家族との連携も得ていき比喩用に応じてはケアプランの見直しも図っている	本人や家族の意向を、ケアマネージャーが聞き取り、普段の様子や課題を職員間で話し合い作成している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録をし、朝の申し送り等で出た様子の変化に対しては改革の見直しも図っている		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	駐在所、消防署等の緊急施設、かかりつけ医、嘱託医の医療機関に協力を求め、安全で安心な生活ができるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月一度、かかりつけ医の訪問診療により体調の変化に応じて支援体制を整え対応をしている。処方箋についても、かかりつけ医、薬局と連絡をとりながら健康の維持に努めている	かかりつけ医の訪問診療の他、入居前から利用している個人病院への受診をそのまま継続している方もおり、職員が付き添い支援している。薬局も2カ所利用しているが、どちらも連携を取りながら支援している。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同事業所(ショートステイ)の看護師のアドバイスや情報を得ながら意見交換し、常に早めの受診対応に努めている		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に関しては病院、医療関係者とは連絡を密に取り合いながら入院前の生活に早めに戻れるよう情報交換を行っており、本人は退院後も戸惑うことなく生活しています		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在対象となる方はいないが今後の方針としては視野に入れ、具体的な方針を打ち出し現実的なものにしていく為に、多方面な関係者と共に支援していきたい	まだ現在の状況では対象となる方がいない為、具体的な方向性が決まっていないが、いざという時に慌てしまわないよう、体制を整備していこうと検討している。	重度化した場合や、終末支援の在り方について事業所で対応できること等を段階ごとに、家族や医療機関、職員の意向を確認しながら対応方針の共有を図ることに期待します。
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	数名の職員が救急救命講習を受けている。残りの職員についても、今後機会があれば講習を受けるようにしていき非現実ではなく現実的なものとして捉え関係者と共に支援していきたい		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。手順については助言等もいただいているが対応については、より以上に危機感を抱く必要を感じる。常時、水を確保して災害には備えているが協力体制の具体的なはまだ一歩である	2階にある施設の為、火災や災害時の避難について、あらゆる情報を得て取り組んでいる。ベランダに避難させ、消防の助けを待つ、布団にくるみ、1階まで避難させる等、現在も検討中である。年2回の消防立ち合いでの避難訓練では、1階に通報装置がある為、1階に降りて鳴らすよりも、2階にある電話で呼んだ方が良い等、アドバイスをもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し又、プライバシー保護には十分に配慮し対応している。特に排泄に関する失禁時には声かけの際、声のトーンにも配慮しながら対応している	トイレ介助の仕方や、ポータブルトイレの処理の仕方等、本人の気持ちを考えながら支援している。言葉のトーンや強弱についても、職員間で注意しあいながら対応している。		
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間やレクの際にはスタッフも同席するようにし、気軽に話せるような雰囲気づくりに配慮し努めている。日々、抱いている個々の希望や想いを聞き出しながら自己決定できるよう働きかけている			
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある特定の方だけとにならないよう、日頃から何気ないお茶の時間の会話に耳を傾け要望、又は希望等を聴けるような努力をしている			
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の美自宅から始まり、身だしなみの不十分な際には声かけし又、自身で行えない方には支援している			
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成には好きなものと嫌いな物をよく把握しながら作成するように努めている。おやつ時には時折、利用者とスタッフで、どら焼き作りにも挑戦したりしている。食事の準備や片づけには利用者も積極的に手伝っている	職員が交代で1週間ずつ献立を作成しており、利用者の食べたい物を聞きながら行っている。又、嫌いなものは別のものを代替えし対応している。食事後は食器を下げたり、お盆を拭いたり、利用者も一緒に行っている。		
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉や魚、野菜をバランスよく含んだメニューづくりに意識しながら献立し又、水分不足気味になってしまう方にはスポーツドリンクや麦茶の摂取を促している			
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の都度、声掛けをしている。入れ歯装着の方には外してもらい、うがいや入れ歯の洗浄と清潔保持に力を入れた支援をしている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方以外は殆ど、定期的に声かけトイレ誘導。又、排尿、排便をチェック表にも記入している。夜間にも声かけで極力、トイレでの排泄を促している	自立している方が半分以上おり、それ以外の方も、声掛けにより排泄の失敗は少なくなっている。チェック表を活用し、現状維持できるよう支援している。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表では排便間隔を毎日確認している。食事にもなるべく食物繊維を多く含む食物を取り入れたり他に、歩行運動等も実施している。排便間隔が大きく空いてしまう方には薬によるコントロールも心がけている		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前バイタルを行い体調確認後に週2回の定期入浴をしている。又、体調の悪い方には清拭を行っている	基本的に(火)(金)に入浴日を設定している。順番は、人間関係等を考慮し、気分良く入浴してもらえるよう配慮している。入らなかった人は次回まで日にちがある為、声掛け等工夫し、なるべく拒否する人も入浴できるよう支援し、入れない人には清拭を行い、清潔を保持している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	春から秋にかけての好天気時にはこまめに布団干しや外気浴も兼ね散歩を行っている。冬季も広い廊下を利用し歩行や運動を行っている		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ファイルを作成している。又、処方箋について疑問のある利用者にも、いつでも説明でき疑問に答えられるよう努めている。誤薬や飲み忘れ防止にも全スタッフが緊張感を持ちながら服薬支援をし記録も徹底している		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	意欲低下防止に繋がっていくよう食前の誤嚥予防体操の担当に利用者を担当割り、予定表を作成している。順番に巡ってくることにより意欲低下防止の効果も得られている。他、同事業所内ショートステイにも出向き共同レクを行いながら気分転換も図っている		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のお祭りや行事には積極的に出かけていき、その時々催し物やバザーでの買い物を楽しんでこられた利用者もいます。他、スタッフと買い物同行もしている	洋服が欲しいと、職員と一緒に買いに行ったり、美容室に行く際も職員が付き添い外出しており、個々に対応した外出ができています。みんなで外出する際も、以前同法人であったショートステイの車を借り出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設の方針として、お金の所持を禁じているが年一回、買い物ツアーを企画し計画している。それぞれの方が買い物し、自身で支払うことでお金の大切さも感じ取ってもらっている		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった場合には家族や知人にはいつでも連絡がとれ、手紙や年賀状等の投函支援もしている		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に室温調整をこまめに行い、又、ホールには季節を感じれるような掲示物や飾りつけをしている。四季を通して居心地を良くした空間づくりに努力し努めている	廊下やホールがとても広いつくりとなっており、温度等に気を付け、過ごしやすいよう配慮している。ホール内の展示物は、利用者が作成しており、3月はひな祭り、4月は桜の花等、毎月変更されている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下奥にも新たにテーブルソファを設置し、ホールと同様に気の合った利用者同士が会話し、くつろげるように配慮している。状況により男女の席替えでも気分転換を図っている		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前なるべく使い慣れ親しんだ物を用意してもらう事は家族にも伝えており、入居後も家族写真や馴染みのタンスを配置したりする事により極端な環境の変化の防止と居心地よくする工夫に努めている	ベッドとタンスは施設のものを使用しており、亡くなった両親の写真を飾ったり、息子の使っていたぬいぐるみやタオルを持参したりと、本人が落ち着いて過ごせる居室となっている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行通路となっている廊下は、安全に歩行できるよう又、転倒の誘発となる物等は置かず整備している。掲示物等も見易い位置、大きさに考慮し一日の流れをどなたにも、分かり易く掲示している		